

News Release

2025年4月14日

東日本電信電話株式会社 神奈川事業部

「横浜」をテーマに産官学連携の異業種交流でプロジェクト報告

～ まちの魅力・ブランド力向上を後押し ～

東日本電信電話株式会社 神奈川事業部(執行役員 神奈川事業部長:相原 朋子、以下「NTT東日本 神奈川事業部」)は、横浜の地で仕事をする自治体・企業が協働し、横浜市の持続的な発展に向けた課題解決に取り組むプロジェクト「横浜異業種交流会」を2024年10月に立ち上げました。<*1>

普段勤務する会社・職場を離れ、異なる環境・メンバーで、「横浜」をテーマにプロジェクト立案・実行を行い、その成果報告会を2025年4月8日(火)に開催しました。

なお、本取り組みは、横浜市とNTT 東日本が2023年9月に締結している「住みたい・住み続けたい・選ばれる都市の実現に向けたまちづくり協定」<*2>における『にぎわいを創り出すまちづくり』にもつながる取り組みとして展開しています。

<*1>報道発表資料 https://www.ntt-east.co.jp/kanagawa/information/pdf/20241011_01.pdf

<*2>報道発表資料 https://www.ntt-east.co.jp/kanagawa/information/detail/20230922_001.html



1. 「横浜異業種交流会」の概要

(1) 参加者: 計 17 名

株式会社横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)、株式会社 KT グループ、神奈川トヨタ自動車株式会社、神奈川トヨタ商事株式会社、株式会社ドコモビジネスソリューションズ、NTT 東日本からの有志社員

※ファシリテーター: アクセンチュア株式会社

サポーター: 横浜市都市整備局、公益社団法人横浜市観光協会、一般社団法人横浜みなとみらい 21、横浜未来機構

アドバイザー: 神奈川大学経営学部国際経営学科 准教授 中見真也氏

(2) 活動期間:2024年10月8日(火)~2025年4月8日(火)

(3) 活動頻度:

- ① 全体ミーティング:月1回程度
- ② チーム内ミーティング:週1回程度(活動内容によってメンバーが主体的に決定)

(4) 目的・狙い

普段勤務する会社・職場を離れ、異なる環境・メンバーで企画~実行の一連のプロセスに取り組むことにより『異なるバックグラウンドにおいて、同じベクトルで施策を実行する推進力』『相互のアセットに対する知見の広がり』を養い人材の成長機会創出、活躍推進への寄与をめざす。

2. プログラム報告会の開催内容

(1) 日時:2025年4月8日(火)15:00 ~17:30

(2) 場所:パシフィコ横浜 会議センター

(3) 内容:チーム単位での成果発表、アドバイザー・事務局からの質疑応答・講評

(4) 発表内容:

- ① 取り組み内容「湾岸エリアと異なる“横浜”の魅力創出に向けて」



Aチームの取り組み概要

異業種交流会のミッション

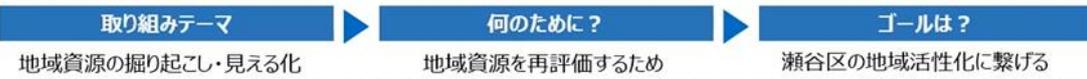
横浜を愛する市民の一員として、横浜市の持続的な発展に資する課題解決に向けた施策を企画・実行

横浜市瀬谷区における「地域資源掘り起こし・見える化」の取り組み

目指したい横浜像	湾岸エリアに頼らない「多様な魅力を持った横浜」
フィールド設定	横浜市瀬谷区
課題設定	地域活性化に資する新しい地域資源の掘り起こしと見える化の在り方。
実証企画	民間ローカルメディアとの連携によるフォトコンテストの企画 ・連携先：瀬谷なび
得られた効果	瀬谷区の地域資源の再確認 「地域資源の具体化」に対するフォトコンテストの有用性や今後の発展性・課題
提言	フォトコンテストのスケール化（短期） 地域資源の再評価・再定義に向けたコミュニティ形成（中長期）

取り組みテーマに対する打ち手の検討 -手段-

改めて・・・



地域資源の掘り起こし・見える化

地域資源を再評価するため

瀬谷区の地域活性化に繋げる

- 目的およびその先の最終ゴールを見据え、取り組みテーマに対する有用な手段として「**フォトコンテスト**」を採用
 - ✓ 愛着から生まれる投稿が多いと想定され、まさにゴールを目指した「地域を愛する目線」で掘り起こしができる
 - ✓ 地域資源が視覚的に捉えられ、アウトプットそのものが見える化の材料となる

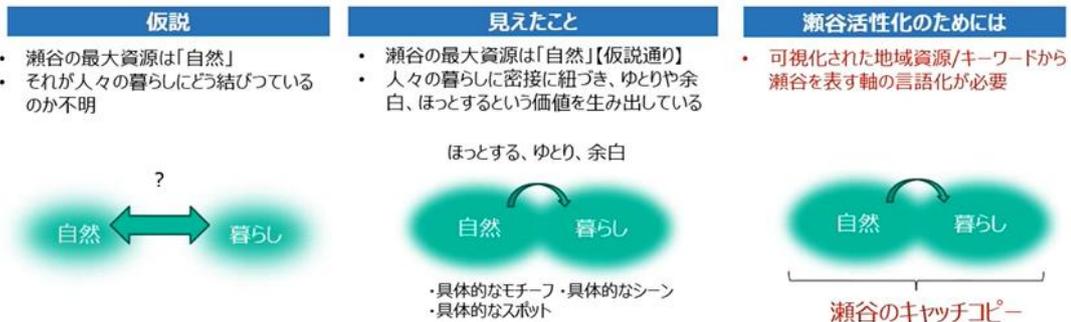
カテゴリ	具体的な打ち手	効果性	実現可能性	即効性	コスト
調査	アンケート	△ ・質問設計次第で十分な回答数が担保できない虞	○	△ ・テキスト情報の集計要	○ ・連携媒体による
	路上調査	△ ・稼働見合いで十分な回答数が担保できない虞	○	△ ・データ化、テキスト情報の集計要	◎
イベント	フォトコンテスト	○	○	◎	○ ・連携媒体による
	ワークショップ	○	×	○	△ ・場所代

23

実証企画の振り返り -フォトコンテストを通じて見えたこと

■ 瀬谷の活性化に向けた「瀬谷を表す軸の言語化」の必要性

- 今回のフォトコンテストを通じて、瀬谷の最大資源は「豊かな自然資源」であることの再確認に繋がった
- 「豊かな自然資源」の中で具体的なモチーフやスポット名称が明らかになる等、自然資源の解像度が上がるとともに、暮らしの中の具体的シーンとの関わりも明確になることで、自然資源が人々の暮らしに密接に関わり一定の価値をもたらしていることが分かった
- 瀬谷区の更なる活性化に向けては、可視化された地域資源(自然)/キーワードから、「瀬谷 = ●●」を言語化しブランディングしていく必要があるのではないか



35

■ 瀬谷なびフォトコンテスト結果発表 & 応募作品の紹介

<https://seya-navi.com/2025/03/25/seyanaviphotocontest2025/>

② 取り組み内容「告白の聖地・横浜」ブランディング計画



Bチーム

「告白の地・横浜」 ブランディング計画

～友達以上恋人未満をターゲットとした生涯横浜を愛する層の醸成～



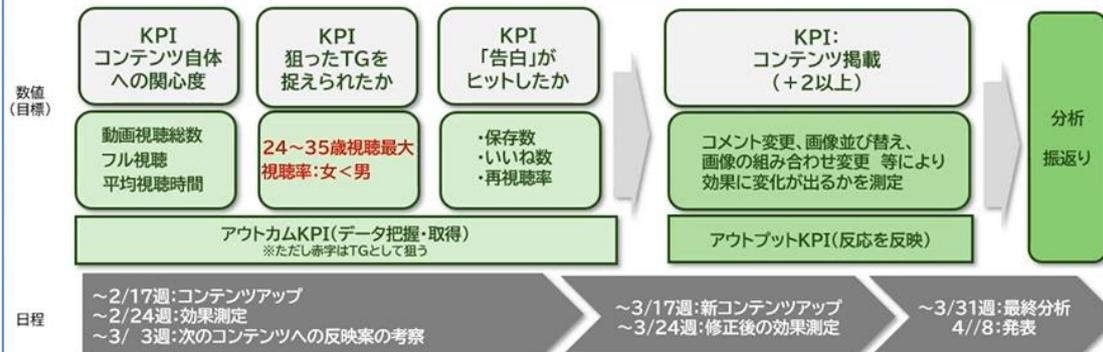
1

5. 効果測定・KPI/KGI

TikTokで取得できるデータを基に以下の目標を設定

生涯にわたり横浜を何度も訪れたい「思い出の地」とする

KGI:「告白するなら横浜」ブランドを創る



23

6. コンテンツ作成

第一弾動画:概要

	コンセプト	タイトル	秒数	音楽
基準	●中華街の食べもの掲載	なし	14秒	メロディのみ
①	●スポット紹介:夜版 1. ハンマーデッキ 2. 日本丸メモリアルパーク 3. 北仲ノット	●「3選」という文言を入れる 9割が知らない みなとみらい告白スポット3選	16秒	
②	●スポット紹介:昼版 1. 女神橋 2. 象の鼻パーク 3. 山下公園	●「3選」という文言を入れる 奥手男子必見 自然と手が繋げるスポット3選	17秒	
③	●ストーリー紹介 ・西洋館エリア(エリスマン邸) ・中華街(江戸清) ・山下公園 ・赤レンガ倉庫 ・Merenge Makana(店舗) ・万国橋 ・THE YOKOHAMA BAY(店舗)	●デートコース紹介 絶対成功! みなとみらい告白デート	23秒	

実際の投稿をご覧ください

アカウント名:みなとみらいで告白せたい
ユーザー名:minatomirai_confesslove
https://www.tiktok.com/@minatomirai_confesslove



27

(5) 参加者による全体を振り返ってのコメント(一部):

「他企業の方と半年間一緒にプロジェクトを進めることができたこと、現在従事している業務と異なることをチャレンジできたこと、自社のサービス制約に縛られず考えることができたのは、貴重な経験でした。メンバーのフットワークの軽さには、気づきや刺激をいただきました。」

「個々の部分では、もう少しできる部分もあると感じてはいるものの、全体を通じて活動期間を本当に楽しむことができました。プロジェクトを通じて知り合えた方、横浜市の事を考えてチャレンジできたこと等は、今後の人生を考える上でも、有意義な時間になりました。」

「地域密着・活性化、まちづくりといった初めて取り組むことに不安もありましたが、これまで培ってきた課題設定力やマーケティング力といったことが活用できることを身をもって体験することができ、新たな発見となりました。」

「今回は『横浜』をテーマにプロジェクトを進めましたが、私の地元である地方では、人口減少・高齢化が重要課題となっているので、各地の事情を踏まえた活動を増やしていく必要があると感じました。」

「今回のプロジェクトでは、課題設定が自由であるが故、進めることが難しい部分もありましたが、未知なる領域のことを楽しく・濃厚に取り組むことができたと思います。」

(6) 主管事務局コメント(NTT 東日本 神奈川事業部 企画総務部長 中野 宏):

「半年間のプロジェクト活動、本当にお疲れ様でした。異なる会社のメンバーで過ごした時間が刺激的であり、新たな気づきもあり有意義であったということで、大変嬉しく思います。実は、私も横浜に長年住んでいた人間の一人なのですが、横浜の方は、多くの方が「横浜愛」を持っていると思います。今回のプレゼンテーション発表でも、皆さんの「横浜愛」をたくさん感じる事ができたことが嬉しいです。この「横浜愛」が横浜にとっての一番の財産なんだと改めて感じました。こういった地域を良くする活動に、多くの方や企業を巻き込んでいくことで、好循環が生まれていき、地域が元気になると信じているので、皆さんには今回の活動を通じて得たヒューマンネットワークや経験を生かして活躍していただくことを願っています。」

3. 本件に関する報道機関からの問い合わせ先

NTT東日本 神奈川事業部 企画総務部 企画部門 広報担当

TEL:045-226-6123 E-mail:kanagawa-kouhou-ml@east.ntt.co.jp